

「8人制サッカー」を活かすための取り組み(課題と配慮)

(第44回ジュニアサッカー津山フェスティバル:指導者セミナー [2011年8月14日]より)

熱心な指導者の情熱。それを支える大人たちの愛情。

少年サッカーの大会や交流会は、40年ほど前から全国各地で次第に“花盛り”の様相となってきた。けれども、それに伴う色々な問題点が指摘されるようになってきた。

1. 大人のサッカーを押しつけ、勝利至上主義的なものになってはいないか？
2. 中盤をとばしのロングボールを蹴り合う形に終始するものになってはいないか？
3. ボールが来ないので閑だったというような選手はいなかったか？
4. 大きな声をとばして指示したり叱咤して選手を動かしてはいないか？ ……など

●8人制サッカー導入までの道のり

| | 日本サッカー協会 | 津山フェスティバル |
|-------|--|--|
| 1995年 | トレセンで7対7+GKという形で実施 | |
| 1996年 | 強化指導指針で少人数制サッカーを推奨 | |
| 1997年 | | U-11の部を「8人制」とする |
| 1998年 | 強化指導指針で「スモールサイドゲームの活用」として8人制を提案 | U-11の成果をふまえてU-12の部も「8人制」とする ※できるだけ大勢を出場させるための「3ピリオド制」採用 |
| 2000年 | 「コース・デベロプメント・プラン」でもスモールサイドゲームを提唱 | |
| 2009年 | チビリンピック少年大会や各年代で8人制の大会が開催されだす | 少子化に対応して「特例チーム扱い」を決める |
| 2011年 | 全日本少年サッカー大会が8人制に移行 ※最初の提案から実に15年でようやく実現 | |

津山フェスティバルでは、常にプログラムや試合形式などに工夫を凝らしてきました。

その道程で、1997年の第30回から「U-11の部」(当時は「5年生の部」と呼称)に「8人制のサッカー」を取り入れました。そのことは、日本サッカー協会が「強化指針 1996年版」の中で「少人数制サッカーの推奨」ということを取り上げられた翌年という時期でした。日本サッカー協会では、さらに「強化指針 1998年版」で「スモールサイドゲームの活用」ということで「8人制サッカーの導入」を提案されたので、心ある全国の指導者が関心を寄せることとなったのです。

津山フェスティバルでは、「U-11の部8人制サッカー」の成果をふまえて、1998年の第31回からは「U-12の部」(当時は「6年生の部」と呼称)も「8人制」にしました。しかもその形は、できるだけ大勢の選手に出場の機会を与えようということで「3ピリオド制」としました。ゴールキーパーを除き選手は1ピリオドと2ピリオドで全員交代し、3ピリオドは再出場及び自由な交代ができるという形を採用して今日に至ったのです。

ところで、子どもたちに「8人制の試合」をやらせさえすればいいというものではないでしょう。津山フェスティバルでの「8人制サッカー」での実際は、どのようなものでしょうか？

1. プレーヤー個々のプレーの機会は増えているだろうか？
2. 全てのプレーヤーがチャレンジ&カバーの考え方を体験しているだろうか？
3. プレーヤーは、常に自分から動きだそうとしているだろうか？
4. 全てのプレーヤーが、強い責任感をもったプレーをしようとしているだろうか？
5. 指導者は、8人制の趣旨や目的などを良く理解したベンチワークをしているだろうか？

今“指導者が変わる。そうして、子どもたちが変わる。”

まさに「指導者の資質」が問われているところではないか。



「8人制」で育てよう少年サッカー

“試合こそが最良の師(Game is the best teacher)”

試合には、子どもたちを成長させるためのヒントや刺激が詰まっています。子どもたちには、できるだけたくさん試合の機会を与え、その中で成功や失敗を経験させて成長の糧を得させるようにしましょう。競技者を11人から8人に絞る「8人制サッカー」では、ひとり一人がボールに触る回数、プレーにかかわる回数が大きく増加して、一人ひとりが、将来につながる能力を高めていくことが期待できます。魅力的なサッカーの基礎をより多く学習することができるはずです。指導者は、試合で練習の成果を発表する場と考えて、子どもたちに自分の意のままの試合運びを押しつけるというのではなく、子どもたち同士が工夫しあうような雰囲気的大事にしていきましょう。ディフェンスの後ろにリベロを置くことなどは、「8人制サッカー導入」の考え方にそぐわないものです。守備では、全員が1対1でより責任を持って守ることを強調しましょう。攻撃では、3つのポジションの全てから仕掛けられるようなプレイヤーの配置も考えるなど、「8人制サッカー」での育成効果を十分念頭において対処してほしいものです。

(2011年8月・第44回ジュニアサッカー津山フェスティバル:指導者セミナーの記録より)



「8人制サッカー」でのメリット

1. ピッチサイズを小さくしてあるので、プレイヤーは全ての状況が見渡しやすい。
 - ①チームプレー、バリエーション豊かなコンビプレーが考えられやすい。
 - ②リスクへの準備もしやすい。
 - ③互いのコミュニケーションもとりやすい。
2. チームの人数が少ないので、全員が攻守に参加しなければならない。
 - ①プレイヤー一人ひとりがボールに触れる回数が増える。
 - ②全員によるオールラウンドなプレーが求められる。
 - ③全員に素早い攻守の切りかえが求められる。
 - ④全プレイヤーの活動量が増える。
 - ⑤クリエイティブな個人プレーを発揮するチャンスが増える。
 - ⑥より意図的なプレー、アイディアのあるプレーがゲームの決め手になる。